



諸遊壊司議員

### 大山寺に「大山ソバ工房」

#### 事業者の応募に期待

**問** 大山町は、大山寺にある眺海荘を、1500万円で購入し、ワイン工房に貸し出し、大山寺の活性化に弾みをつける計画であったが、業者の都合により撤退という事態になった。

その後、再度の眺海荘の利活用が問題となっている。

本町は、県内有数のソバ産地(約60ha)であるにも関わらず、そのほとんどを県外に出荷している。

大山を訪れる観光客に、地元産のソバを食べていただく。また、小・中学生にもソバ道場を開設して、食育の一環として体験させることができる「大

山ソバ工房」の設立を提言する。

さらに、その一角には、町内産の食材で作られた田舎料理を出し、「大山恵みの里構想」の第一歩にしてはどうか。

#### 答 (山口町長)

取得した眺海荘は、大山観光の玄関口であり、早急にその活用を図らなければならぬ。

現在、店舗活用事業者を広く募集中である。

「ソバ工房」は、大山寺の参道周辺に留まらず、町全体に波及効果をもたらすうえでは、期待のできる提案と考える。

議員の提案も含め、大山恵みの里づくり計画の課題である、大山寺参道の集客力の強化や新たな魅力づくりが実現可能な事業者の応募に期待している。



新たな事業者を募集中の旧眺海荘

### 町内巡回バス

#### 運賃統一は困難

**問** 中山・名和・大山の三地区でバスの運営形態が異なり、町民には不公平感がある。

例えば、中山地区は、スクールバスに一般客が乗車でき料金は無料。

また、中山・名和地区は、9号線以外どこでも乗車できるフリー乗降である。料金は、名和地区が100円で、中山地区は、距離によって異なる。

町内同一料金にできないか。提言ではあるが、乗客の少ない路線は、デマンド(予約走行)方式にしてはどうか。

#### 答 (山口町長)

中山地区は、巡回バスを試験運行中。名和地区

### 行政組織の見直し

#### 総合的な判断

は巡回バス、大山地区は、事業者が運行する路線バスとそれぞれ異なり、運営形態や運賃を統一することは困難である。

デマンド方式は経費が多めで、一部地域の運行には適さない。

**問** 総合支所方式から本課分散方式への変更について町長の考えを問う。

(1) 農林水産課は、近くに農業改良普及所や営農センターのある大山支所に置くほうが機能的ではないか。

(2) 支所長の役割を担う者は。

#### 答 (山口町長)

(1) 内部協議をし、いろいろな角度から論議を重ね、総合的に判断をした結果である。

(2) 新しくつくる総合窓口課の課長が決裁権のない支所長を兼務する。



バスのあり方を審議する「地域公共交通会議」